

2009 年度 関西学院初等部 学校評価を終えて

関西学院では、2007 年の学校教育法改正を契機として、2008 年度より初等部・中学部・高等部が互いに連携をとりながら各学校の学校評価（以下、自己点検・評価）を行うことを決めました。

初等部は 2008 年 4 月開校であり、まだ評価を行うには少し早いのではないかと考えましたが、草創期であるが故になおさら客観的な評価を受けながら、さらにより良い教育を行っていかうと考え、共に実施いたしました。

それぞれの学校がアンケートしました共通の項目は、「教育課程・学習指導」「児童・生徒指導」「安全管理」「研修（資質向上の取組）」「情報提供」の 5 項目です。

初等部独自の項目として、「保健管理」「キリスト教主義教育」を加えて児童・保護者・教員に実施いたしました。

回答いただきましたアンケートの結果を集計、分析したものを参考に自己点検・評価結果をまとめ、関西学院評価推進委員会（2010 年 3 月 26 日）において承認されましたのでホームページ上で公表いたします。

初等部では自己点検・評価によって浮き彫りになった課題に真摯に向き合い、教職員でその課題を共有し、具体的に改善を図ってまいります。またその改善を社会に公表することによって学校への信頼を高めていく所存です。

次項以降に 2009 年度初等部の自己点検・評価結果を項目別にまとめたものを記しました。

2010 年 3 月 26 日

関西学院初等部
部長 磯貝 曉成

【教育課程・学習指導】

現状の説明

開校2年目に当たる本年度、昨年度の反省を生かしながら初等部教育構想に基づく新たなシラバスを作成して、教育活動を展開してきた。シラバスには、各教科で実施する単元の目標、時間数、時期を明記している。授業者は、日々シラバスを確認しながら計画的に授業を行ってきた。授業は、各教科の基礎的な学習内容を確実に児童が理解できるようにするとともに、発展的な問題に取り組む場面を数多く設定するようにした。力の時間では、算数で学習したことを組み合わせて問題を解くなど、教科学習で身に付けたことを生かす学習に積極的に取り組んできた。

学習成果は、学校で統一して設定している評価規準と評価方法により客観的に把握できるように努めるとともに、その後の指導に役立てるように留意している。また、音楽や図工の日々の成果は、文化祭のステージ発表、展示発表を通じて、児童、保護者、教職員が分かち合えるようにしている。

本年度より「尊重しあい、学び合う学校をつくる」という研究テーマを設定し、全員が授業を公開した。お互いの授業を公開し、互いに批評し合ったり、外部講師を招いたりすることで、授業力の向上に努めた。すべての児童にとって魅力的な授業を展開するためである。

評価・分析（アンケート結果を含む）

アンケートでは、学力把握、学習内容の定着、教師の授業に対する努力・工夫、芸術文化活動のすべてにおいて、教師、保護者、児童が高い評価を与えている。

学力把握については、94%の教職員が肯定的な回答をしているのに対して、保護者の肯定的な回答は89%であった。教職員と比べると保護者が若干低い評価となっている。学校で共通に行われている評価方法が具体的に保護者に伝わっていない面が多少あると考えられる。

学習内容の定着については、教職員の88%が肯定的な回答している。保護者は基礎的学習については86%が、発展的学習については90%が肯定的な回答をしている。基礎的学習をベースにした発展的な学習の展開が高い評価を得ている。

教師の努力・工夫については、86%の保護者が肯定的な理解を示したのに対して、教職員の肯定的な回答は、59%にとどまった。保護者からの高い評価の一方で、教職員はまだまだできることがあると考えている。

芸術文化活動については、肯定的回答が、児童98%、保護者90%となり、非常に高い評価を得ている。日々の授業、そしてその成果を発表する場としての文化祭が認められている。

改善の具体的方策

評価規準の設定の仕方など、全校で共通に行っている評価方法を、教育講座や個人懇談会などで繰り返し具体的に説明する。また、評価だけにとどまらず、児童の日々の成長を、ホームページなどを活用して、継続的に保護者に伝えていく。

今年度より本格的に始まった校内研究会を、今後ますます活性化し、授業力向上に努める教師集団を目指す。それが、基礎学力の定着、発展的学習の充実、魅力的な授業の実現につながる。

【生活指導】

現状の説明

集団生活のルール・マナーを守ろうとする意識の向上については、全教員が強い意志を持って指導に臨んでいる。校内生活と校外生活の大きく二つに分け、体制を整えて指導している。

校内生活においては、月目標の設定、チャイムの遵守、遊びのルール、廊下階段の安全な歩行、思いやりのある言葉づかいの励行など、基本的な生活習慣の確立を目指している。

校外生活は安全な登下校に中心を置いている。宝塚駅からの登下校ルートに、登校時、警備員5名、同窓会宝塚支部のOBで編成する「スカイレンジャーズ」2名、PTA3名が立ち、安全とルール・マナーを指導している。教員も通勤途上で適宜指導している。

また、命の大切さや環境の保全などについてはチャペル講話や授業を通して指導し、小さなトラブルなどが起きた場合、適宜保護者と連携を取りながら、児童同士の人間関係に配慮しつつ指導している。

評価・分析（アンケート結果を含む）

保護者のアンケートでは、「集団生活に関するルールやマナーについて適切に指導している」で91%が、また「命の大切さや環境の保全を学ばせている」で96%が肯定的な回答を寄せている。全体指導もさることながら、各学級における丁寧な個人指導、担任外の適切な指導が交わって功を奏しているといえる。また、警備員と学事委員会が連絡を密にし、日々の警備報告を教員が回覧して翌日には問題行動を指導する体制をとって以来、問題行動の継続発生が目に見えて減ってきた。また、その指導状況も警備員にフィードバックしており、情報の共有という点で連携が取れている。

これに対して「思いやりのある言葉づかいや挨拶の指導」、「児童同士の人間関係への配慮」では、それぞれ肯定的な回答が82%、78%にとどまるという、やや低い結果となっている。これについては学年によって回答に開きがあり、重点指導の必要がある。しかし、全体的にやや低い結果になっていることを踏まえ、具体的な方策を探る。

改善の具体的方策

思いやりのある言葉づかい、挨拶については、こころの時間で継続して指導しているし、各学級においても、校内のいろいろな場面でも適宜指導している。しかし、さらに児童の意識を高めるため「がんばりカード」を作成して指導したり、挨拶週間を設定して全員で励んだり、よく挨拶できている児童を称賛し、良い例として紹介したりする、という具体的方策をとる。

「児童同士の人間関係への配慮」については、十分配慮して児童指導、保護者対応をしているつもりであるが、今後、学年会議や教師会を通じて、さらなる情報の共有と児童理解につとめ、より丁寧な指導を進めていく。本校では、「尊重しあい、学びあう学校づくり」を研究テーマにしている。生活指導においても、児童相互が尊重し合えるような仲間作りを目指していく。

【安全管理】

現状の説明

安全管理は、学校事故の緊急事態発生時の対応と、教職員・児童の安全対応能力の向上を図るための取り組みに分かれている。

これまで、学校事故の緊急事態発生時の対応としては、台風接近による緊急一斉下校と阪急電鉄宝塚線架線切断事故発生による当該下校ルート使用児童対応があった。いずれも児童を学校管理下に留め、保護者と直接連絡を取り、確実に引き渡す方法をとった。また、学校を守る警備については常駐警備員2名の人的警備と機械警備による24時間監視体制が整ったセキュリティシステムを採用している。

教職員・児童の安全対応能力の向上を図るための取り組みについては、登下校の生命の安全を守ることをねらい、警察と連携して交通安全指導を計画的に実施している。加えて、防犯訓練や火災・台風・地震を想定した避難訓練も行っている。また、消防署の指導のもと教職員に限定した訓練も行っている。

評価・分析（アンケート結果を含む）

アンケートの結果によればハード、ソフト両面において強固なセキュリティシステムを備えている初等部を97%の保護者が肯定的に理解している。常駐警備員2名による人的警備体制をはじめとして、学校全体を守るシステムが満足の要因として考えられる。また、緊急事態発生時の保護者への迅速な連絡と適切な対応については95%が肯定的に理解している。平素より、保護者との連絡を大切にしているが、緊急下校体制をとった時は保護者連絡で確認の取れた児童以外は下校させずに学校管理下に留めたことが功を奏した。加えて、ホームページ画面での情報提供、一斉配信メールにより瞬時に連絡できるシステムがあることによって、必要な情報が必要な時に配信されることもこの結果につながっている。

登下校時の交通安全については92%の保護者が肯定的に理解し、教職員・児童の安全対応能力の向上を図るための取り組みについては93%が肯定的に理解していることがアンケートの結果から読み取れる。これは、年間行事に位置付けられている各種防災訓練・避難訓練の実施が理解されていることによる。

改善の具体的方策

アンケートの結果から、教職員、保護者、児童とも肯定的に受け止められていると言えるので、現在実施している方策を継続し充実させていく。緊急事態発生の場合は、さらに的確かつ迅速な対応をするとともに、児童・教職員の諸訓練がルーチンワークにならないように緊張感を持って実施できるよう工夫する。

登下校時に見守りをいただいているPTA、下校時も参加してくださることになったボランティアのスカイレンジャーズの方、安全確保を担っている警備員、そして教職員の四者間における情報共有と緊急事態発生時の対応方法を整理確認し、指示系統の明確化を図る。

【研修（資質向上の取組）】

現状の説明

開校2年目の今年度から研修部（研修プロジェクト）を立ち上げて、正式に教員研修を進めてきた。具体的には、1学期には初等部での評価の改善を念頭に、評価規準や観点別成績集計シートの作成とその活用を徹底することに取り組んだ。2学期には、研究テーマを「尊重しあい、学び合う学校をつくる」と設定し、すべての教員が主に担当する教科を設定した。また、教科を3つの部会に分け、研究テーマについて協力して取り組むことができる体制を整えた。さらに学期内に一回以上の授業を公開する機会を設定し、授業後に感想を伝えあうという実践に取り組んだ。3学期には2学期同様、学期内にすべての教員が授業を公開することに加えて、部会ごとに指導案を作成し、授業後には討議会を持つ授業研究会を計3回行った。授業研究会のうち2回では外部講師を招聘し、模擬授業をしていただいたり、討議会后に講話を受けるなど研修を進めてきた。

評価・分析（アンケート結果を含む）

アンケートでは半数以上が肯定的に評価している半面、「まったくそう思わない」と回答している教職員もあり、否定的な回答は4割を超える。今年度は教員研修プログラムを設定して研修会を持ったり、公開授業の機会をもったりしていることから、否定的な回答の理由はプログラムの有無ではなく、内容に関するものであったり、授業研究の機会が「十分には」与えられていなかったりというものであると考えられる。

改善の具体的方策

研究テーマは来年度も継続していくので、より研究テーマに即した研修プログラムの作成を進める。また、公開授業の機会をできる限り持つようにしてきたが、授業を見学に行く機会の保障は現体制では限界があった。相互の学び合いの機会を充実するためにもよりより研修体制を確立したい。また、校外研修にもより積極的に参加できるような体制をつくっていく。

【情報提供】

現状の説明

初等部では、保護者への情報提供の媒体として、ホームページを積極的に用いている。教育理念、カリキュラム等の基本的な学校情報と共に、初等部の教育活動をより丁寧に分かりやすく伝える努力をしている。特に「きょうの初等部」は毎日更新され、保護者を含め、一般の方々にも初等部の様々な教育活動をご覧いただけるページとなっている。また、保護者のみがアクセスできる「親子スクエア」では、学校からのお知らせとともに、各学年のページでより具体的な児童の活動の様子を発信しており、タイムリーな情報を保護者が受け取れるようになっている。加えて「一斉配信メール」「緊急連絡ページ」(携帯電話からもアクセス可能)のシステムを採用し、保護者に対して迅速に必要な情報の提供を心がけている。

紙媒体としては、「学年だより」を発行し、各学年からのメッセージと共に、学年として必要な情報を提供している。

電子媒体、紙媒体での情報提供のみならず、保護者が実際に学校での学習活動に触れることができるよう、ほぼ毎月授業参観を中心に、各行事への参加プログラムを提供している。

評価・分析(アンケート結果を含む)

アンケートでは、学校に関する様々な情報提供に関して、「学校は、保護者への情報公開を学年だよりやホームページ(親子スクエア等)を通して、適切にしているか」との質問に86%の保護者が肯定的な回答をしている。

また学校公開の実施状況についても、「学校は、授業参観日を適度に設け、保護者に授業を公開しているか」との質問に対して92%の保護者が肯定的な回答をし、「学校は、保護者に学校行事を公開し、児童の学校での様子を見てもらう機会をもっているか」との質問に対しても91%の保護者が肯定的な回答をしている。ただ「学校行事は保護者に参加しやすいように、日程等が配慮されているか」との質問に関しては肯定的な回答が81%に留まった事から、保護者が参加しやすい日程等の設定に工夫が必要と思われる。

いずれの質問に対しても保護者の評価は高くなっているが、約10%が否定的な回答をしているという事実を受け止め、より多くの保護者が満足できる情報提供の方法を模索する必要がある。

改善の具体的方策

保護者への情報提供は、学校に対する信頼感に関わる重要な事項である。保護者がどのような情報を求めているか、まずはその把握が必要である。学級担任や管理職に寄せられる保護者の声を集約し、保護者のニーズに基づいた情報提供のシステムを作ることが必要である。

初等部では教師会、部長室会、学年主任会、各分掌委員会、学年会等の様々な会議があり、そこで初等部の教育活動について話し合っている。その話し合いが教職員の視点だけではなく、保護者の視点でも行われなければ、学校と保護者との間に溝ができてしまう。

教職員が保護者の目線に立って教育活動を実践していくためにも、これまで以上に保護者の声に積極的に耳を傾け、その声を集約していくシステムの構築が必要であると考えます。

【保健管理】

現状の説明

来室者数、年間延べ 2,500 人。内科的な訴え（頭痛、腹痛等）よりも、外科的な訴え（擦り傷、切り傷、打撲等）が多く、全体の 7 割を占めている。学年別では 2 年生が最も多く、他学年の倍の人数が来室している。来室人数によっては、養護教諭 1 人で対応するのが難しく、来室者数を記録できていない時もある。

内科的な訴えをする児童の中には、塾や習い事による疲れが抜け切れていない子、食生活で好きな物を中心に摂ってしまう子、寝る時間が遅い子など、生活リズムの乱れが見受けられる。

また、長距離通学をしている児童も多く、朝が早いせい朝に排便をしてくる児童が少ない。そのため、通学途中で腹痛を起こすなど、低学年児童に関わらず体力面での負担が大きいに思える。

現在は、必要に応じて担任やカウンセラーと連携を取りながら保健室運営を進めている。

評価・分析（アンケート結果を含む）

児童が健康で安全な学校生活を送れるように、健康診断を実施し、その結果により事後指導・管理を行うとともに、日常の疾病や怪我に対し適切な処置を行うよう努めてきた。

また、教員やカウンセラーと児童に関する情報の交換ができるよう、学校内でのコミュニケーションを大切にしてきた。

アンケートにある「児童を対象とする保健に関する体制整備や指導・相談の実施」項目については、全体的に評価の平均が昨年より低く、特に「心配ごとができたなら、すぐに先生に相談できますか」という項目に関しては、児童の評価が昨年より低くなっていることから、学校において自分の悩みを相談する場（相談する相手）が不十分であることがわかった。

改善の具体的方策

今後も引き続き、児童が健康で安全な学校生活を送れるよう努めていきたい。

また、カウンセラーや教員と連携を図りながら、児童の心身の悩みに対し相談できる体制を整え、相談しやすい環境を提供できるよう改善していきたい。

具体的な改善策としては、様々な事例を研究し、専門医の見解を聴講する等して、教師の児童理解力を深めていきたいと考えている。

【キリスト教主義教育】

現状の説明

初等部は、関西学院の建学の精神である「キリスト教主義による全人教育」を当然のことながら教育の柱としている。毎朝の礼拝（こころの時間）を始め、昼食前の昼礼、下校前の終礼、様々な宗教行事、聖書科授業を通して、キリスト教の精神、価値観を児童なりに受け入れ、祈りの大切さ、他者に対する思いやりの心を養っている。

今年度より本格的に児童礼拝（児童が司会、お話し、お祈りを担当）を行い、担当児童は聖書の言葉や関西学院のスクールモットーである「マスタリー・フォア・サービス」（社会と人のために自らを鍛える）の意味を考え、他の児童に向けて話をしてくれている。そのような児童の姿からもキリスト教主義教育の成果をみることができる。また宿泊行事（2・4年のリトリートキャンプ、3・5年の自然体験・自己体験キャンプ）においても、聖書の学びは重要なプログラムとなっており、キャンプのテーマに基づいた良き学びの時をもっている。

保護者に対しても「聖書講座」を開講し、キリスト教や聖書への理解を深めてもらう機会を提供しており、毎回250名程度が参加している。また新入生の保護者に対しても、入学前の2回のオリエンテーション、入学後のオリエンテーションで、初等部のキリスト教主義教育について説明している。

評価・分析（アンケート結果を含む）

アンケートの結果、95%の児童がこころの時間や聖書の学びが自分にとって大切であると回答している。これは日常の学校生活の中で、こころの時間や聖書の学びがほとんどの児童に受け止められ、定着している証である。また「学校は、キリスト教主義教育の理念について、保護者と共有する機会を設けているか」との質問に対して、保護者の87%が肯定的な回答をし、「学校は、キリスト教主義に基づき、人を思いやる気持ちや態度を育てているか」との質問には保護者の90%が肯定的な回答をしている。これは家族や友人との関わりの中で、キリスト教主義教育に基づく「マスタリー・フォア・サービス」の精神が児童の心の中に養われている一つの証であろう。

一方、「学校は、教員間でキリスト教主義教育の理念を共有する機会を設けているか」との質問に対して、教員の多くが否定的な回答をしている。初等部のキリスト教主義教育を担うのは教職員であり、キリスト教主義教育の理念を共有するための具体的な対策が必要である。

改善の具体的方策

前述のとおり、95%の児童がキリスト教主義教育を肯定的に受け止めており、今後も児童がそのように感じられる指導を心がけたい。児童が高学年になるに従い、より丁寧な指導が求められるであろう。

初等部のキリスト教主義教育を担うのは特定の教職員ではなく、すべての教職員であるという自覚を持つことも必要である。そのためには、教職員間でキリスト教主義教育の理念を共有する機会を定期的にもち、共通理解をもって児童の教育にあたることが大切である。初等部で初めてキリスト教に触れた教職員も多く、関西学院のキリスト教主義教育のあり方、キリスト教（聖書）についての研修も定期的にも実施していく。

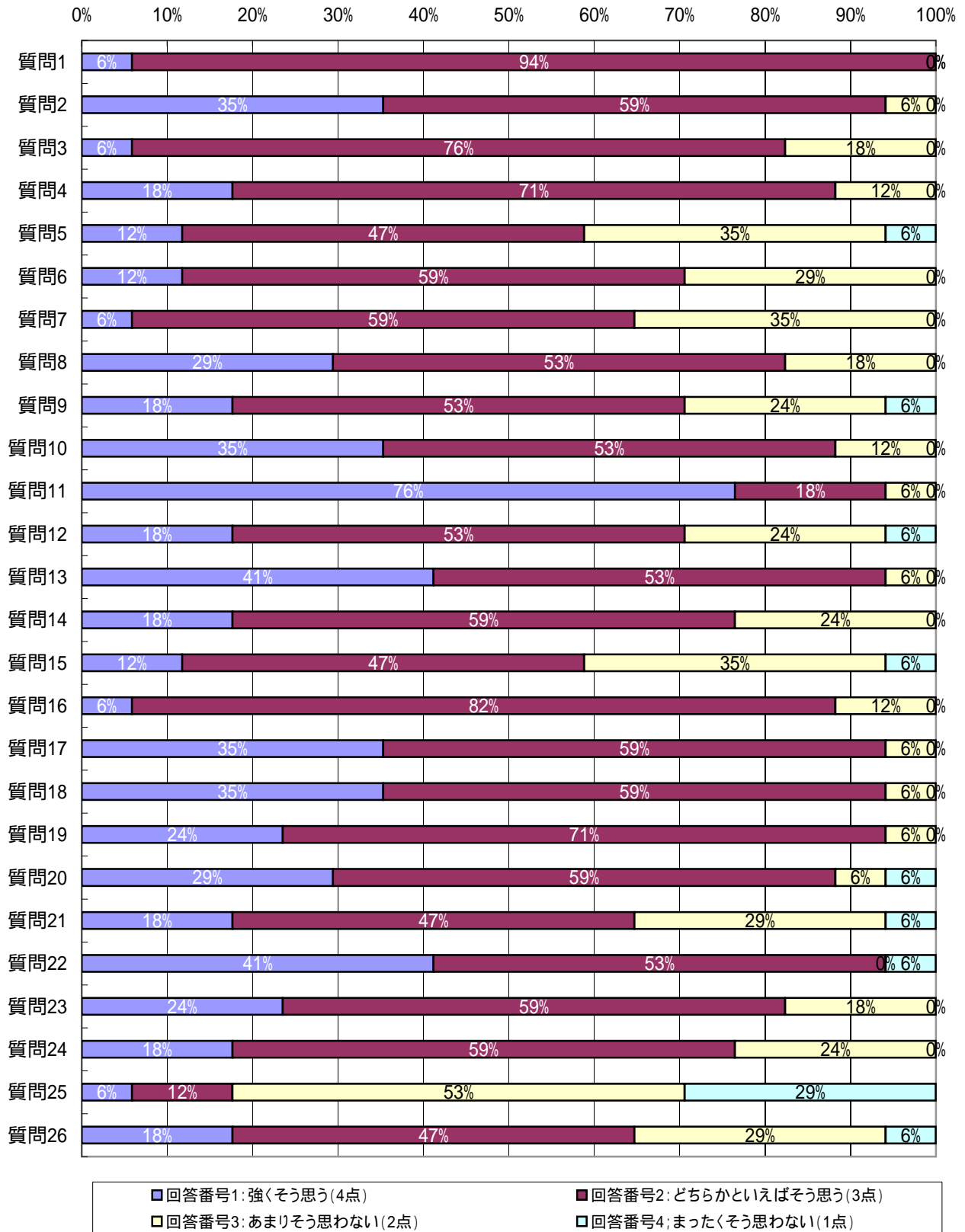
保護者のキリスト教主義教育の理念について共有する機会を持ちたいというニーズにも、聖書講座だけではなく、ホームページ等を有効に活用し、情報を発信していく。

関西学院初等部 2009年度学校評価 実施項目別アンケート結果一覧表

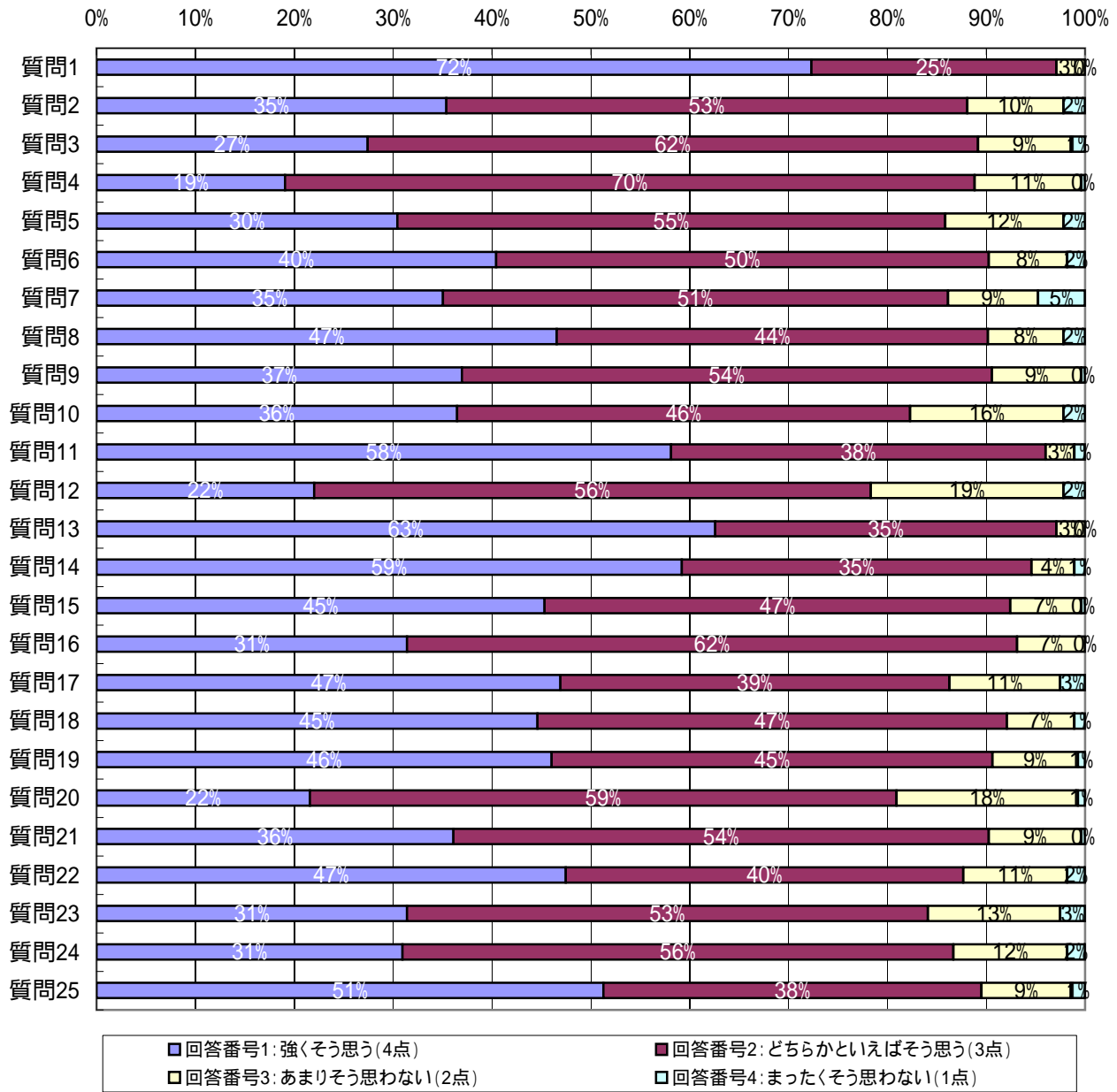
共通 / 独自	大項目	小項目	目標	アンケート				選択肢(児童用)				
				教職員用	平均点	保護者用	平均点		児童用	平均点		
共通	学校全般 (追加項目)					1.子どもは、学校に行くのが楽しいと感じている。 2.初等部の教育には満足している。	3.6 3.0	1.学校は楽しいですか。	3.5	とても楽しい / 楽しい / あまり楽しくない / 楽しくない		
		(1) 児童の学力・体力の的確な把握	評価規準を設定し、それに基づく的確な評価を行う。	1. 評価規準により、的確な評価を行っている。	3.1							
			評価規準に基づき、的確に児童の学力を把握する。	2. 児童の客観的な学力把握に努めている。	3.3	3. 学校は、子どもの学力を把握している。	2.9					
			運動能力テスト等を通して、児童の体力・運動能力を把握し、体力・運動能力の向上に資する。	3. 児童の客観的な体力把握に努めている。	2.9	4. 学校は、子どもの体力を把握している。	2.9					
		(2) 各教科の特性に応じた授業への工夫と児童の興味・関心に応じた授業展開	基礎的、基本的な内容の定着、および発展的学習の展開のため6年一貫シラバスを作成し充実させる。	4. シラバスによる計画的な授業を行い、児童にその内容を定着させている。	3.1	5. 学校は、基礎学力が定着する授業を行っている。 6. 学校は、基礎的な学習だけでなく、発展的な学習も取り入れながら授業を行っている。	2.9 3.1	2. 授業では、新しいことをたくさん知ることができますか。	3.3	とてもできる / できる / あまりできない / できない		
			魅力的な授業づくりのための工夫。	5. 質の高い魅力的な授業のために、授業研究をなし、不断の努力をしている。	2.6	7. 学校は、楽しく分かりやすい授業にするために工夫をしている。	2.9	3. 授業はわかりやすいですか。 4. 授業では、自分から調べたり、考えたりすることが多いですか。	3.5 3.0	とてもわかりやすい / わかりやすい / わかりにくい / とてもわかりにくい とても多い / 多い / 少ない / ない		
			授業研究会、交流授業を継続的に実施し、各教諭の授業力を向上させる。	6. 授業研究を通して、自身の授業力の向上に努めている。	2.8							
		(3) 芸術文化活動	様々な芸術のそれぞれのよさを見出すとともに、自分の願いをこめて、音楽作品、美術作品をつくりあげる喜びを感じ取る。	7. 学校は、音楽、美術(図工)を中心とした芸術教育を通して、児童の豊かな感性を育成するよう努めている。	2.7	8. 学校は、音楽、美術(図工)を中心とした芸術教育を通して、子どもの豊かな感性を育成している。	3.1	5. 音楽や図工の授業は楽しいですか。	3.8	とても楽しい / 楽しい / あまり楽しくない / 楽しくない		
		共通	3. 生徒指導	(1) 社会の一員としての意識についての指導	挨拶や時間厳守など、社会生活をする上での基本的なマナーについて指導する。	8. 挨拶や時間厳守など、社会生活をする上での基本的なマナーが児童に身につくよう適切に指導している。	3.1	9. 学校は、集団生活に関するルールやマナーについて適切な指導をしている。 10. 学校は、思いやりのある言葉づかいで話し、しっかりと挨拶ができるように指導している。	3.0 3.0	6. 学校のきまりを守って生活していますか。 7. だれにでも元氣よくあいさつをしていますか。	3.1 3.5	よくできている / できている / あまりできていない / できていない よくできている / できている / あまりできていない / できていない
					(2) 命の大切さや環境の保全などについての指導	命の大切さや環境の保全など、社会の中で生きる上で大切なことについて指導する。	9. 礼拝や授業などを通して、命の大切さや環境の保全などについて、学校生活の中で伝える努力をしている。	2.8	11. 学校は、命の大切さや環境の保全などについて、礼拝や授業などを通して学ばせている。	3.4	8. こころの時間や授業などで、命の大切さや人間として大切なことを学ぶことができますか。	3.4
(3) 豊かな人間関係づくりに向けた指導	豊かな人間関係づくりのために、適切な指導を行う。			10. 児童間の人間関係を円滑にするための配慮、指導をしている。	3.2	12. 学校は、子ども同士の人間関係に配慮しながら指導している。	2.9	9. 思いやりのある友だちが多いですか。 10. 友だちが困っていたら、助けてあげていますか。 11. 友だちの意見や考えをよく聞いていますか。 12. 相手の気持ちを考えて行動することができますか。	3.2 3.2 3.3 3.0	とても多い / 多い / あまり多くない / 多くない よくできている / できている / あまりできていない / できていない よく聞いている / 聞いている / あまり聞いていない / 聞いていない よくできる / できる / あまりできない / できない		

共通	大項目	小項目	目標	アンケート				選択肢（児童用）		
				教職員用		保護者用			児童用	
					平均点		平均点			平均点
共通	5.安全管理	(1) 学校事故等の緊急事態発生時の対応	児童の安全のために学校のセキュリティシステムを充実させる。	11. 学校は、児童の安全のためにセキュリティシステムを充実させている。	3.7	13. 学校は、児童の安全のためにセキュリティシステムを充実させている。	3.4	13. 学校では安心して生活することができますか。	3.3	とてもできる / できる / あまりできない / できない
			緊急事態発生時に十分な対応をする。	12. 学校は、緊急事態発生時に適切な連絡、対応をしている。	2.8	14. 学校は、緊急事態発生時に、保護者に迅速に連絡し、適切な対応をしている。	3.4			
		(2) 安全点検や、教職員・児童の安全対応能力の向上を図るための取組	登下校時などの交通安全について折に触れ児童の意識を高める。	13. 学校は、登下校時などの交通安全について、児童の意識を高める努力をしている。	3.4	15. 学校は、登下校時などの交通安全について、児童の意識を高める努力をしている。	3.2	14. 登下校の交通安全について、学校の先生から大切なことを教えてもらっていますか。	3.6	よく教えてもらっている / 教えてもらっている / あまり教えてもらっていない / 教えてもらっていない
			防災訓練を実施し、児童の防災・安全意識と災害への対応力を育成する。	14. 学校は、必要な防災訓練を実施し児童の防災・安全意識と災害への対応力を育成している。	2.9	16. 学校は、必要な防災訓練を実施し、児童の防災・安全意識と災害への対応力を育成している。	3.3	15. 避難訓練では、先生の指示に従って、安全に避難することができますか。	3.8	よくできる / できる / あまりできない / できない
共通	8. 研修（資質向上の取組）	(1) 授業研究の継続的実施など、授業改善の取組み	授業研究を継続的に実施し、授業改善に取り組む	15. 学校は、教員研修プログラムを設定し、教員相互の授業研究の機会を十分に提供している。	2.6					
共通	10. 情報提供	(1) 学校に関する様々な情報の提供	学年だよりやホームページ等を通して、保護者に学校の情報を提供する。	16. 学校は、保護者への情報公開を適切にしている。	2.9	17. 学校は、保護者への情報公開を学年だよりやホームページ（親子スクエア等）を通して、適切にしている。	3.2			
			授業参観日を設け、授業公開を計画的に行う。	17. 学校は、保護者を対象とした授業参観日を適度に設け、授業を公開している。	3.3	18. 学校は、授業参観日を適度に設け、保護者に授業を公開している。	3.3			
		(2) 学校公開の実施の状況	学校行事を保護者に公開し、児童の学校での様子を見てもらう機会をもつ。	18. 学校は、保護者に学校行事を公開し、児童の学校での様子を見てもらう機会をもっている。	3.3	19. 学校は、保護者に学校行事を公開し、児童の学校での様子を見てもらう機会をもっている。	3.3			
				20. 学校行事は保護者に参加しやすいように、日程等が配慮されている。	3.0		3.0			
独自	4. 保健管理	(1) 児童を対象とする保健に関する体制整備や指導・相談の実施	・保健室を、児童に利用しやすいように整備する。	19. 学校は、保健室を児童にとって利用しやすいように整備している。	3.2	21. 学校は、子どもの心身の健康について把握し、疾病予防のための具体的な取り組みをしている。	3.2	16. 心配ごとができれば、すぐに先生に相談できますか。	2.5	すぐできる / できる / あまりできない / できない
			・児童の健康面の情報を的確に管理する。	20. 学校は、児童の健康面の情報を的確に管理している。	3.1					
			・児童の様々な相談を受け止める体制を整える。	21. 学校は、児童が抱えている様々な課題を受け止める体制を整えている。	2.8					
		(2) 家庭や地域の保健・医療機関等との連携	・ケガや病気の発生時に、家庭や医療機関との連絡を迅速に行う。	22. 学校は、ケガや病気の発生時に、家庭や医療機関との連携を迅速かつ的確に行っている。	3.3	22. 学校は、ケガや病気の発生時に、家庭や医療機関との連携を迅速に行っている。	3.1			
			・健康診断を定期的に行う。	23. 学校は、疾病予防のための具体的な取り組みをしている。	3.1	23. 学校は、子どもの心身の健康について気軽に相談できる環境を整えている。	3.0			
			・疾病予防のための取り組みを具体的に実施する。	24. 養護教諭、カウンセラーや教員との間で、児童に関わる情報の交換・連携を適切に行っている。	2.9					
独自	キリスト教主義教育	(1) キリスト教主義教育の理念の共有	・教職員間でキリスト教主義教育の理念を共有する。	25. 学校は、教職員間でキリスト教主義教育の理念を共有する機会を設けている。	1.9	24. 学校は、キリスト教主義教育の理念について、保護者と共有する機会を設けている。	3.0	17. こころの時間や聖書の勉強は大切なことだと思いますか。	3.7	とても思う / 思う / あまり思わない / 思わない
			・キリスト教主義教育を学校生活の中で具体化する。	26. 学校は、キリスト教主義教育を学校生活の中で具体化している。	2.8	25. 学校は、キリスト教主義に基づき、人を思いやる気持ちや態度を育てている。	3.2			

学校評価アンケート集計
(初等部・教員)



学校評価アンケート集計結果
(初等部・保護者)



学校評価アンケート集計結果
(初等部・児童)

